

2024 年 7 月 23 日
環境経済学レポート

環境経済学期末試験

情報経営システム工学分野 B3

学籍番号 : 24336488

氏名 : 本間三暉

1 記述問題

国際交渉の結果、ある国が二酸化炭素排出量を X トン削減する義務を負うことになった。そこで、図 1 のとおり、政府は、 R_a の限界削減コスト曲線を持つ企業 A に、 X_a トンの削減量を、 R_b の限界削減コスト曲線を持つ企業 B に、 X_b トンの削減量を割り当てたとする。ただし、 $X = X_a + X_b$ と仮定する。

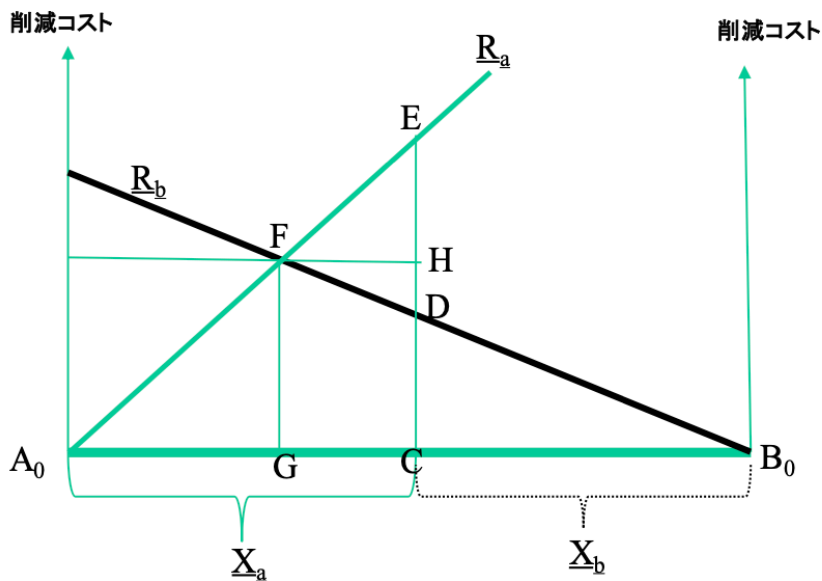


図 1: aa

- 1.1 二酸化炭素削減量取引を許さない場合の削減コストを求めよ。
- 1.2 二酸化炭素削減量取引を許す場合の削減コストを求めよ。
- 1.3 二酸化炭素削減量取引を許す場合と許さない場合の削減コストを比較せよ。
- 1.4 二酸化炭素削減量取引を許す場合の、取引量、取引価格を求めよ。

2 レポート課題

道路輸送部門の脱炭素化を実現するために、自動車の電動化が必要不可欠である。自動車電動化の推進にどのような対策が必要か、ZEV(Zero Emission Vehicle) 目標規制・クレジット取引制度をどう位置づけるか 等について、検討せよ。

参考文献

$$[1]$$